2021（令和３）年度　パソコン実技試験問題（あらすじ）
テーマ「入門！日本語の歴史」

こんにちは。関東大学で日本語を研究している山田です。
今日は日本語の歴史について話します。
突然ですが、古典は得意でしたか？得意だった人は手を挙げてください。ほとんどいませんね。
では、わけがわからなかった人、手を挙げてください。ありがとうございます。
少数派かもしれませんが、古典が得意だった人もいるでしょう。
ここで知ってもらいたいのは『枕草子』に出てくるような言葉を、実際に話していた時代があったということです。
先祖があのような言葉でコミュニケーションをとっていたと聞くと、驚かれるのではないでしょうか。
古文の日本語と現在の日本語があまりに違うため納得できないかもしれませんが、日本語は少しずつ変化しています。
例えば、平成１５年に文化庁が「とても明るい」という意味で「全然明るい」という言い方を使うかどうかを調査した結果、使う人は約２１％、使わない人は約７９％でした。
「全然」を否定表現以外に使うのは誤りだというのは誤解で、戦前までは肯定表現で使っていました。
言語は常に変化をしていますが、ある日を境に激変するのではなく、少しずつ変化します。
古文を読んだときに違和感を覚えるのは時代的な違いが大きいからで、これは外見の変化と似ています。
「昨日より１日分老けた」と思う人はいないけれど、小学生からまったく見た目が変わっていないという人もいません。
ある程度の時間的隔たりがあって、ようやく違いを実感できるのです。
見た目が変わっても私は私であるように、古文の日本語と現在の日本語は同じ日本語です。
古文のような記録が残っている言語は、実は多くはありません。
例えばヨーロッパでは、古くはギリシャ語、ラテン語が話されていて、英語ができあがるのはずっと後です。英語の歴史は日本語ほど遡れません。
その意味で日本語はまれな言語ですが、古文が苦手な人にとっては「残ってしまったばかりに」と恨めしいかもしれません。
まとまった日本語の古い記録は、奈良時代あたりから確認できます。
「令和」の出典も『万葉集』からということが話題になりました。
日本語は、1300 年くらいの歴史を確認することができます。
これらを詳しく見ると、日本語がさまざまに変化してきたことがわかります。
例えば、「行く」という漢字の音読みは、「修行」「行水」の「ギョウ」、「行動」「行為」の「コウ」、「行灯」「行脚」の「アン」という３種があります。
１つの漢字に異なる読みがあるのは、それぞれの読みが日本に伝わった時代が異なるからです。
日本にはもともと古い漢字の音（おん）があり、当時のエリートは一生懸命それを学んでいました。

しかし、遣唐使として中国に行った人たちが、それまで学んでいた漢字の音（おん）と中国で話されている音（おん）の違いに気づき、最先端の音（おん）を日本に伝えました。
さらに鎌倉時代に別の音（おん）が輸入されたため、現在の日本では１つの漢字にいくつもの読みができてしまいました。歴史を紐解くと漢字の読みの変化が明らかになります。
漢字をややこしいと思っている人は、昔の人がせっせと漢字の音を輸入したばかりに種類が増えて大変だと感じるかもしれません。
日常使う日本語について、あまり深く考えないと思いますが、改めて言われると疑問に思うことも多いのではないでしょうか。
時間のあるときに日本語の歴史の本など読むと、新鮮な発見があると思います。
英語も大切ですが、日本語もおもしろいものですよ。以上。

1415/2399 文字

2021（令和３）年度　手書き実技試験問題（あらすじ）
テーマ「聴覚障害者がコロナ禍で発見したもの」

こんにちは。難聴者協会の田中です。
今日は新型コロナウイルスとマスクについてお話しします。
新型コロナウイルスが世界各地で猛威を振るい、日本も 2020 年３月あたりから感染者が増えて大変でした。
マスクが感染予防になると言われ、夏でもマスクをつけることが当たり前になりました。皆さんも暑いのを我慢してつけていたことでしょう。
電車やバスの中では、色とりどりのマスクを目にします。
また、眼鏡が曇りにくいマスクや冷たく感じるマスクなど、コロナの影響でいろいろな機能のマスクが出回っています。
こうした新しいマスクを持っている人は手を挙げてください。ありがとうございます。
多くの人が持っていますね。
厚生労働省によると、マスクによって 70～75%もウイルスの吸い込みが抑えられるということなので、やはりマスクをつけることは大切です。それほど抑えられるなら、面倒でもつけた方がいいと思う人が多いのではないでしょうか。
昔からの白い布マスクでも、機能的なマスクやおしゃれなマスクでも、感染を拡大させないためにマスクをつけることが当たり前になりました。
さて、マスクが広まったのは良いことですが、マスクの思わぬデメリットが明らかになりました。
それは、聴覚障害者のコミュニケーションの妨げになるということです。
私たちは、声だけでなく口の動きや表情からも相手が伝えたいことを読み取っているので、マスクをすると口の動きが読めずコミュニケーションの障害となるのです。
マスクのせいで困った人は手を挙げてください。まあまあ、おられますね。
私たちには、口の動きや表情などの視覚的な情報も、コミュニケーションをとる上で重要です。
いわば「声を目で見ている」のです。
しかし、健常者は普段の生活で「声を見ている」という認識や、視覚的に声をとらえる意識を持っている人は、ほとんどいないので、マスクをつけていてもコミュニケーションに困ることがなかったのです。
聴覚障害者からはマスクによって「話の内容がわからない」、「話しかけられていることすらわからない」という不安の声も聞きます。
こうした状況を改善する取り組みが始まっています。
例えば、口元が透明のマスクを学校や自治体に無料で配布するプロジェクトがあります。
マスクをつけていても口元が見えるので、難聴者は「誰が」「何を」言っているのかわかりやすくなる、すばらしい取り組みです。
また、音声認識技術により話の内容をリアルタイムで文字表示してコミュニケーションがとれる仕組みなど、さまざまな取り組みが各地で始まっています。
新型コロナによって、これまでの日常が大きく変わり、いまだ多くの人々が困難に直面している状

況に、暗い気持ちになってしまう人もいることでしょう。
しかし、私たちはこれまでもさまざまな困難を乗り越えながら、発展を遂げてきました。
新型コロナ以前は、聴覚障害者のコミュニケーションの実態が社会に知られていませんでしたが、コロナをきっかけに状況が変わりつつあります。
コミュニケーションの重要性が改めて意識されるようになり、障害に関係なく誰もがコミュニケーションをとれるようにという意識が芽生え始めています。
健常者を含めみんなが困ったことになったため、これまでの当たり前を考え直すきっかけになりました。そのように考え直していくことで、より良い社会を実現できます。
平等なコミュニケーションを守ろうという動きは素晴らしいことです。
こうした希望を胸にがんばっていきましょう。
最後にお知らせですが、今日の参加者に透明マスクのプレゼントがあります。
この部屋の後ろのドアのところに置いています。必要な方はお持ち帰りください。以上。

1501／2492 文字